

~いのちをまもる~
災害教訓の伝承を通じた「防災意識社会」の構築

~過去の災害事実の教訓の「見える化」と地域の皆様への伝承~

令和3年3月18日

秋田河川国道事務所

～いのちをまもる～

災害教訓の伝承を通じた「防災意識社会」の構築

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

課題

東日本大震災をはじめ、我が国が経験してきた大規模災害の教訓を伝える取組が行われているものの、それらが十分認知されておらず、過去の災害が伝える教訓を防災に十分活用できていない。

対応（案）

- 東日本大震災による被災の実情と災害への備えを一体的に学べる仕組みとして東北地方の産学官の連携による「3.11伝承ロード」の構想を実現する「伝承ツーリズム」を令和2年度から本格的にスタートするとともに、全国各地の災害教訓を伝える構造物や地物、伝承館及び語り部などを活用した防災ツーリズムを全国で展開し、国民の防災力向上や地域の活性化に貢献。
- 引き続き、地図等を用いた災害教訓の“見える化”を着実に進めるとともに、これらが多くの人々に浸透するよう、デジタルサイネージ等による積極的な情報発信に努めるほか、災害をより身近に、“我が事”として捉えていただくため、防災教育素材やウォークラリー等にも活用。



1. 自然災害の事実や教訓の伝承は全国的な共通課題

過去の災害の教訓伝承の重要性〔平成30年7月豪雨災害：広島県 坂町のケース〕

- 広島県 坂町 小屋浦地区では、1907年（明治40年）に土砂災害があり、甚大な被害が発生した旨の石碑が設置されている
- 避難勧告を受けた避難率は町全体の半分程度



出典：国土地理院（地理院地図「自然災害伝承碑」）

水害碑
(広島県坂町小屋浦地区)

＜避難勧告が出されて2時間後までの避難率＞
坂町全体：3.9% 小屋浦地区：1.9%

出典：中国新聞（2018年11月14日）

■平成30年7月豪雨災害の初動対応の実体験から、土砂災害でも洪水災害でも過去の災害の教訓伝承は極めて重要と再認識

■災害常襲のわが国では、自然災害の事実や教訓を伝承するための仕組みづくりは全国的な共通課題

2. 地図を通しての教訓の「見える化」と子供達への伝承 防災・減災のための「備え」面での地図の役割・再構築

○自然災害伝承碑や災害古文書などの「災害履歴情報」や明治期の低湿地などの「地形特性情報」をWeb『地理院地図』で提供し、地域での防災力の向上や防災教育の充実を支援

防災地理情報

災害履歴情報

地図記号
「自然災害伝承碑」
を新たに制定



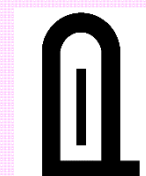
【Web『地理院地図』での表示イメージ】



2019年6月から
順次掲載



【2万5千分1地形図での表示イメージ】



2019年9月から
順次掲載

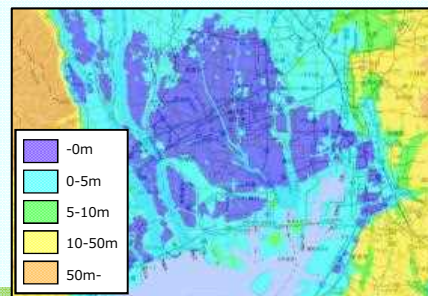


地形特性情報



明治期の低湿地

三大都市圏のみ → 地方都市の整備に着手



標高 (0m地帯)

平野部が中心 → 丘陵地など整備範囲拡大



地形分類

「自然災害伝承碑」情報の活用イメージ

土地の成り立ちや災害履歴でハザードマップをサポート

○ 倉敷市（平成29年作成）の洪水・土砂災害ハザードマップと7月豪雨による浸水実績はほぼ一致

○ ハザードマップでは、浸水深が5m以上（2階でも安全でない）と示されていた



倉敷市ハザードマップ（平成29年作成）
平成30年西日本豪雨の浸水範囲を赤で追記

○ 土地の成り立ちと、先人が伝えてくれた災害履歴を組み合わせ地理院地図で提供

→災害を現実としてイメージ可能に

明治26年大洪水供養塔



地形特性情報と災害履歴情報を「地理院地図」上で重ね合わせ

- Web『地理院地図』は、防災面のプラットフォームを目指し、「防災地理情報」を含む様々な地理空間情報を提供するウェブ地図で、**正確な日本の姿**を表しています。

備え

地理院地図の特長

(1) 最新の緊急輸送道路が載っている！

高速道路や国道等を供用開始日に地図に反映

(2) 防災地理情報が載っている！

- ① 明治期の低湿地データ等の災害リスク情報を含む、2,000以上の情報が見られる
- ② 「自然災害伝承碑」情報が見られる

(3) 緯度、経度に加え標高がわかる！

- ① 断面図作成機能で避難経路の傾斜を確認できる
- ② 色別標高図作成機能で0m地帯などの地元の詳細な高低差がわかる

(4) 地域の防災力強化に有効な機能がある！

- ① 地元の指定緊急避難場所がわかる
- ② 道の駅など防災面で有効な施設情報がわかる
- ③ 震災遺構などの情報も記入予定

発生後

(5) 被災前後の写真を比較できる！

2画面表示で被災状況が視覚的にわかる

地理院地図



過去の災害事例①

象潟地震 1804年7月10日（文化元年6月4日）

■今から217年前に発生した地震で、にかほ市象潟周辺は地盤が隆起し、潟湖が干上がり隆起した。

- 死者333人、倒壊家屋5,500戸

出典：「理科年表」によると、秋田・山形両県の総合被害として数字があげられている。
（本荘市史通史編より）

- 象潟付近で最大5m程度の津波

出典：秋田大学HPより



写真：天然記念物「象潟」九十九島
（にかほ市HPより）

地震で隆起して、干潟（陸地）となった。

※登録する碑は、碑文が刻まれていなくても、古文書で内容が確認できれば、「自然災害伝承碑」として登録可能。

過去の災害事例②

子吉川水害 明治27年8月25日

標柱背面記載文

■明治27年の大水と言われている。

- ・浸水戸数2,000余り、流出家屋64戸、全壊35戸、半壊19戸、死者21人、行方不明1人

出典:「市制施行五十年記念 ふるさとさ散歩 街かどに拾う」より

明治廿七年八月廿五日、本縣未曾有ノ大洪水アリ。由利平鹿雄勝ノ三郡最モ甚シ。子吉川水量ノ増加、此ノ標柱を超ス事尺五寸。當町大町除之外悉浸シ、溺死者二十余名、流失家屋三十余戸、非常ノ慘状ヲ呈セリ。同年十月廿二日劇震アリ、道路亀裂シ、隣縣酒田市ハ中心点タリ。同廿九年八月廿一日、劇震一層甚シ。源ハ本縣六郷町中心点タリ。如レ此頻繁ナルハ希有ノ事タルヲ以テ、紀念ノ為メ後世ニ傳フト云爾。



出典:国土地理院地図に位置等を追記して掲載

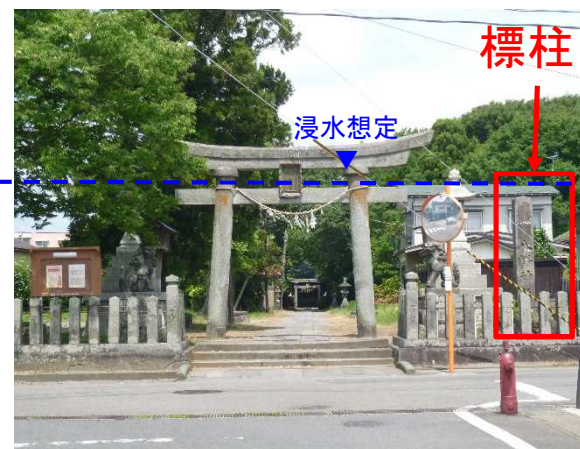


写真:八幡神社大鳥居

「この標柱を超えて尺五寸(45cm)に達する大洪水有り」と記載あり
(明治30年中横町丁内寄付)

出典:「由理」第6号
(本荘由利地域史研究会)

3. 子供達の学びの環境整備へのご理解・ご支援のお願い

■令和4年度に高等学校での「地理総合」の必修修化を受け、
今、子供達への地理教育や防災教育の支援をより強化するタイミング

■あなたの地域に遺る「自然災害伝承碑」を是非、地図に載せましょう
⇒自然災害伝承碑の登録は、地元の市区町村が国土地理院の地方測量部に申請

■そうすることで、子供達が自分たちの地域の土地の成り立ちや災害履歴をしっかりと学べるなど、災害への「備え」の学習環境が向上いたします

■更に、先人からの教訓を自然災害伝承碑として、「見える化」することで、それぞれの土地の皆さまに、災害をより身近に、“我が事”として捉えていただけます

新しい地図記号  (自然災害伝承碑) を是非、周知願います

国土交通省国土地理院「自然災害伝承碑」URL: <https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

4. 「流域治水」の推進のために

■流域のあらゆる関係者が連携して取り組む「流域治水」がスタート



■過去の災害の事実や教訓を知る必要がある



■災害史や郷土史に詳しい方の力も賜り、子吉川流域での過去の災害の「見える化」を推進する



■流域に暮らす人々の自然災害に対する防災意識の定着を図り、災害発生時の安全行動に繋げる。